

# ～中津管内初任研の振り返り～ 【中学校】 令和8年6月18日（木）実施

研修の目的：「楽しくて力の付く授業」づくりに向けて、モデル授業動画の視聴を基に研究協議することをおし、授業構想や魅力ある学級づくりに関する実践的指導力の向上に資する。

## 【午前の部：授業づくり・指導法に関する学び】

### 授業の見通しと構造化（ゴールとプロセスの明確化）

- ・授業冒頭で「本時の流れ」「時間配分」「評価規準」「振り返りの視点」を板書やICT（電子黒板）で提示することで、生徒が見通しを持って主体的に動けることを学んだ。

### 生徒目線に立った授業設計と「学び合い」の創出

- ・教師主導の説明を抑え、「生徒がどうなってほしいか」「生徒目線の板書や提示ができているか」を意識した教材研究・単元構想の重要性を実感した。

### 効果的な机間指導と肯定的な対話・評価

- ・机間指導中に個別の問い返しや適切なヒントを与え、生徒の考えを深める具体的なやりとりを学んだ。
- ・生徒の取り組みや良い意見を積極的に褒め、肯定的に評価する指導法を自身の授業でも実践したい。

### 温かい雰囲気とメリハリのある授業規律の両立

- ・生徒がリラックスして発言・活動できるなごやかな雰囲気と、ルールを守るメリハリのある授業規律の両立について感銘を受けた。

# ～中津管内初任研の振り返り～ 【中学校】 令和8年6月18日(木)実施

## 【午後の部：生徒指導・生徒理解に関する学び】

### 表面的な言動にとらわれない「要因の深掘り」と背景理解

- ・「困った子は困っている子」という捉え方のもと、立ち歩きや私語などの表面的な問題行動の裏にある「悩み・家庭環境・人間関係」などの要因を深掘りする大切さを学んだ。

### 日常の観察・たわいもない会話を通じた居場所づくり

- ・安全・安心な居場所（否定されない、自己存在感・自己決定を感じられる環境）を作るため、日頃から小さなサインや日常の変化を見逃さない観察が重要だと再認識した。
- ・挨拶や何気ない日常会話を重ねることで、生徒との信頼関係を築いていきたい。

### 「褒める」と「叱る」のバランス（発達支持的生徒指導）

- ・普段の指導で「叱る・注意する」場面が多くなりがちであったことを振り返り、生徒を認める・褒める肯定的な関わり（発達支持的生徒指導）を増やしたいという意識が高まった。

### 悩みの共有と「チーム学校」による組織対応

- ・グループ協議を通じて、他の初任者も同様の悩み（6月以降の生徒指導案件の増加など）を抱えていることを知り、実践的なアドバイスや安心感を得た。
- ・指導を教員1人で抱え込まず、学年部・管理職・同僚（報・連・相）や保護者と連携した「チーム学校」で生徒を支える体制づくりの重要性を学んだ。

# ～中津管内初任研の振り返り～ 【小学校】 令和8年8月20日（木）実施

研修の目的：「楽しくて力の付く授業」づくりに向けて、モデル授業動画の視聴を基に研究協議することをおし、授業構想や魅力ある学級づくりに関する実践的指導力の向上に資する。

【午前の部】「楽しくて力の付く授業」づくりにおける学び

## 「教える」から「子どもがつくる」授業へ

教師が一方的に進めるのではなく、児童生徒の言葉や疑問を軸にして展開する重要性を感じた。

## 単元全体の構想と見通し

1時間ごとの時間配分に追われるのではなく、単元全体のゴールや評価規準、前時の学びとのつながりを意識した教材研究の重要性を学んだ。

## 「困り」から始まる課題設定

児童生徒の素朴な疑問や「困り」から課題を位置づけることで、児童全員が課題を自分ごととして捉えられるようにしたい。

## 見通し・理解度の把握

授業冒頭での全体・単元の見通しの提示、手を使った理解度チェック（グーパーチェック等）。

## 蓄積と振り返り

振り返りシートや掲示物の活用により、学んだ内容を教室に残す工夫。

# ～中津管内初任研の振り返り～ 【小学校】 令和8年8月20日（木）実施

【午後の部】 「安全・安心を実感できる居場所（学級）」づくりにおける学び

## 「困った子」は「困っている子」

多くの初任者が最も強い印象を受けた言葉として挙げており、問題行動を起こす児童生徒の表面だけを見るのではなく、「本人が何に困っているのか」「どんな助けを求めているのか」に目を向ける姿勢へと意識が大きく変化した。

## 背景や多角的要因の深掘り

家庭環境、悩み、サイン（機嫌や様子の変化）など、行動の裏にある背景を多角的に捉え、日頃の観察やメモを通じて変化を見逃さない意識が高まった。

## 事後指導・決めつけからの脱却

「真っ先にその子が悪いと決めつけてしまう」「感情的・強く指導してしまう」といった1学期の対応を反省し、まずは受容し寄り添う対応を目指したい。

## 安心できる空気と活躍の場づくり

自己決定の場や活躍できる場面を工夫し、一人ひとりが「自己存在感」や「安心感」を持てる居場所づくりを意識していきたい。

## チーム（学校組織）での対応

トラブルや悩みを1人で抱え込まず、同僚や学年・学校全体で相談しながら多角的な視点を取り入れて解決に向かう姿勢（チーム指導）の重要性を認識した。